

パブリックインボルブメントによる 沿道環境整備計画

国土交通省徳島工事事務所 鈴木 清*

国土交通省徳島工事事務所 ○田中元幸*

国土交通省徳島工事事務所 宗光太助*

by Kiyoshi Suzuki, Motoyuki Tanaka, Daisuke Munemitsu

徳島県徳島市佐古地区の一般国道192号沿線(1.4km)は、市内でも有数の渋滞地点である他、歩道と自転車通行帯との間の段差や街路樹の落ち葉等、様々な問題を抱えている。対象区間では、電線類地中化事業が進められており、これを契機とした新たなみちづくりを行うため、平成11年度に、学識経験者や沿道住民代表等からなる「佐古地区みちづくり委員会」を設立し、この委員会を中心とした、渋滞対策や歩道整備について検討が行われてきた。

平成11年度は、道路の構造について検討を行い、周辺住民及び道路利用者の意見を基に、渋滞解消施策としての交差点改良及び歩道の段差解消を計画し、平成12年度は、これまでの検討結果を踏まえ、委員会やワークショップ等を通じた地元住民との対話により、道路構造の改善計画(歩道・自転車通行帯間の幅員再配分等)、歩道の景観整備計画(舗装材や舗装色の選定、街路樹の取り扱い、照明灯等の付属施設のデザイン等)からなる総合的なみちづくり計画を策定した。

【キーワード】合意形成、パブリックインボルブメント、アカウンタビリティ

1. 対象地区の概要

一般国道192号は、徳島県西部の町村と徳島市を結ぶ大動脈である。対象区間である佐古地区(1.4km)は、県都徳島市の玄関口として豊かな歩行空間を持ちゆとりある道路環境を形成しているが、市内でも有数の渋滞地点である他、歩道と自転車通行帯との間の段差や街路樹の落ち葉等、様々な問題を抱えている。

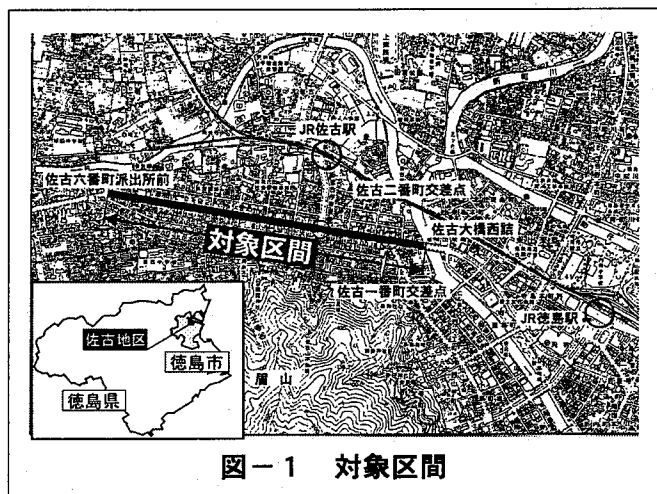


図-1 対象区間



図-2 佐古地区の歩道の現況

また、過去に街路樹の落ち葉や毛虫発生等の問題で、住民運動に発展した経緯もあり、一部の住民は行政に対して不信感を抱いている。

一方、まちの側にも、高齢化、沿道商店の衰退、コミュニティの低下等の問題があり、活性化が望まれている。

2. 「佐古地区みちづくり」を進める上での問題点

次に示す「技術的な問題点」と「合意形成に関する問題点」があった。

* 国土交通省徳島工事事務所 088-654-2211(代表)

(1) 技術的な問題点

a) 道路構造（幅員構成と段差）

自転車・歩行者交通量と幅員構成の不整合（自転車：日 3000 台一幅員 1.7m、歩行者：日 550 人一幅員 3.8m）から、自転車が歩道を走行する錯綜を引き起こしていた。また、自転車通行帯と歩道間の 10cm 程度の段差により、自転車の転倒がしばしば見られた。（図－3）



図－3 歩道・自転車通行帯間の段差

b) 歩行環境

自転車通行帯、歩道ともアスファルト舗装であるため、まちとしての潤いに欠け、さらに、一見して見分けにくいことが、自転車の歩道流入の要因でもあった。

一方、高木の落羽松（ラクウショウ）は、街路樹として珍しく、当地区のシンボリックな存在である反面、以下の問題を引き起こし、住民運動に発展した経緯もある。（図－4、5）

- ・落ち葉
- ・毛虫
- ・視認性（交差点での視距、沿道商店の看板が隠れる等）
- ・日光・照明光の遮断



図－4 高木（ラクウショウ）

(2) 合意形成に関する問題点

道路の問題に加え、まちの側にも高齢化、沿道商店の衰退、コミュニティの崩壊等の問題があり、その解決にもつながる「個性ある、歩きたくなるまちづくり」が求められた。そのため、計画づくりにお

いては、道路利用者、沿道住民、地域住民、市民等から意見を引き出し、それらの異なる意見を踏まえつつ、まち・まちの持つ特性・問題点を客観的に捉える必要があった。

さらに、合意形成においては、同地区での街路樹に関する過去の住民運動の経緯も踏まえ、「計画策定に至るプロセスの共有」と「徹底した対話によるコミュニケーション」が求められた。



図－5 住民の抗議を伝える新聞記事

3. 問題解決に向けた施策

前述した問題解決に向け、様々なコミュニケーション手法を活用し、「みちづくり計画」を立案した。

(1) 目的に応じた様々なコミュニケーション手法の活用

a) 問題の共有

道路の各種問題点について、障害者等の交通弱者の視点も踏まえ再確認・再抽出するため、「徳島車椅子の会」、「徳島盲導犬を育てる会」等と合同で対象区間を点検した。

【ポイント、効果など】

- ・問題の共有、再確認・再抽出、新たな発見

b) 住民意向のリサーチ

アンケート調査により道路利用者を含めた地域住民の意向を把握した。

【ポイント、効果など】

- ・幅広い意向把握
(結果は委員会での検討材料に)
- ・委員会における検討事項を周知

c) 検討体制の構築と住民意識の向上

委員会を設立するとともに、幅広い意見の抽出と住民意識の向上のためワークショップを開催した。

(図-6)



図-6 ワークショップ風景

【ポイント、効果など】

①委員会

- ・大枠のみちづくり方針（みちづくりの進め方や広域的視点が必要な事項[渋滞解消策等]）を検討

②ワークショップ

- ・委員会での検討結果を周知し、了承を得るとともに、身近な事柄（例えば舗装色等）について検討
- ・ステップの共有、フェイストゥフェイスのコミュニケーション

③ヒアリング

- ・幅広い意向把握、専門的な立場からの提言を得る

d) 実証実験での体感と確認

ワークショップへの舗装材サンプルの持ち込み、フォトモンタージュ作成、試験舗装での車椅子走行、歩道の色分け実験により、完成形のイメージや空間配分を体感・確認した。(図-7, 8)



図-7 舗装材の試験施工現場での車椅子走行実験の様子



図-8 歩道の色分け実験の様子
(歩道：3.0m、自転車通行帯：2.5m)

【ポイント、効果など】

- ・実証実験を通じて、委員・住民とも自ら体感し確認
- ・住民の参加意識の向上（イベント効果）

e) 広報による周知

決定事項の周知や住民の責任感を向上するため、地区住民へのチラシの投げ込み、記者発表、事務所ホームページへの情報掲載を行った。

【ポイント、効果など】

- ・決定事項の周知徹底、幅広い情報発信
- ・住民の責任感の向上

(2) みちづくり計画のポイント

a) 道路構造の改善

①歩道の段差解消

歩道と自転車通行帯間の段差を解消した上で、舗装の色分けにより区分する。

②幅員構成の見直し

自転車通行帯：1.7m→2.5mへ拡幅

歩道：3.8m→3.0mへ縮小

b) 歩道のデザイン

①舗装

舗装材は、「バリアフリータイプ」を採用。色は、住民の意見により決定。

②街路樹

撤去・保存の相反する要望等を踏まえ、交差点付近及び新設照明灯付近の「間引き」を行う。

③付属施設

照明灯やバス停上屋のデザイン化により、総合的なまちなみ景観の統一・個性化を図った。



図-9 歩道の完成予想図（フォトモンタージュ）
〔自転車通行帯：赤色系、歩道：黄色系〕

4. おわりに

この度の「コミュニケーション型のみちづくり」により、真に住民にとって快適で使いやすく、地域の特色を活かした「みちづくり」が実現し、さらには、まちの活性化やコミュニティの醸成にも波及すると期待している。今後は、整備効果を把握するとともに、維持管理等について、住民との新たな協力関係を構築し、みちづくりの取り組みを継続・発展していく必要がある。

また、この度の業務で得られた「P Iによるみちづくり」を進める上での問題点やノウハウを共有し、今後のみちづくりに活かしていきたいと考えている。以下に問題点と今後の対応について示す。

(1) 合意形成

【問題点】

多様な意見は得られるものの、一定の方向性を見出すことに苦勞した。

【今後の対応】

「行政としてゆずれないもの」、「住民にゆだねるもの」、「住民の意見は聞くものの広い視点で総合的に判断するもの」等、取り扱う要素ごとに「誰に対し、どこまでP Iするか?」、あらかじめ方針を明確にしておく必要がある。

(2) スケジュール

【問題点】

合意形成に予想以上に時間がかかり、議論の後戻りや新たな問題発生等のため、想定したスケジュールどおりに進まなかった。

【今後の対応】

P I経験者や専門家の意見を踏まえ、初期段階でスケジュールの見通しを付けるとともに、変更に対しては、柔軟に対応する必要がある。

(3) その他

【問題点】

ワークショップ参加者に高齢者が多く、青年層、若年層の参加はほとんどなかった。

【今後の対応】

P Iは、住民自らが「学び、動き、対話する」必要があり、今後の人材育成の観点からも、若い世代の参加を促す必要がある。

The plan improve the environment along the road by Public Involvement

by Kiyoshi Suzuki, Motoyuki Tanaka, Daisuke Munemitsu

In these days, the environment of the residence by the road is getting more public attention than the road itself. Sometimes there really are many things to solve that only the residents can be aware of. Therefore we had been working out the plan together with the residents who live near by the road to improve their living environment.

In this report, we introduce such procedures as Public Involvement which includes the way how to bring up the problems and work out the plan with them.